

水辺の環境



ブナ

ブナ科ブナ属ブナ *Fagus crenata*

日 本の温帯林を代表するブナは、北海道から九州までの広い範囲に生育する落葉高木で、大きいもので高さ 30m、径は 1.5m に達します。また、同じブナであっても、葉の大きさに差がみられ、宮城県金華山以南の太平洋側に分布するブナは相対的に葉が小さく、日本海側の多雪地を中心に葉が大きくなる傾向があり、それぞれコハブナ、オオバブナとして区別されることもあります。

かつては材としての有用価値が見出されなかったものの、木材加工技術の発展や合板の需要、拡大造林などを機に大規模な伐採が進められ、分布範囲は急速に減少していきました。現在では、数百 ha 以上のまとまった面積を有するブナ林は、その多くが多雪山地に限られています。青森県から秋田県にまたがる白神山地のブナ林は有名で、その中でも特に原生的なブナ林で占められる約 17,000ha の区域は 1993 年に世界遺産に指定されました。雪深い徳山ダム(岐阜県)の流域にも多くのブナ林が広がっています。

ブナは、秋になると堅果を実らせ、その実が野生動物の貴重な餌として活用されるため、ブナの林内は野生動物の宝庫となっています。しかし、実は毎年決まった規模で結実するのではなく、5～7年サイクルで豊作と凶作を繰り返します。これは次の世代に繋げようとするブナの生存戦略によるものです。豊作の年の翌年は森林性ネズミの個体数が一時的に大幅に増えます。また、凶作の年は人里でツキノワグマの目撃例が多く、餌を求めて人の生活圏近くにも降りてきていることが示唆されています。この豊凶性が、多様性豊かなブナ林に生息する野生動物にも大きな影響を及ぼしています。いくつかの自治体等のホームページでは、前年の開花状況等から翌年のブナの豊凶予測を見ることができます。

参考文献：日本の野生生物（木本Ⅰ） 平凡社 1989年
ブナ林の自然環境と保全 ソフトサイエンス社 1991年
環境省自然環境局生物多様性センター・インターネット自然研究所ホームページ
山形県ホームページ